

不良かな！？ちょっとその前に！HLF（ハンドリフター）編

下記と合わせて取扱説明書もご確認ください

（症状）テーブルが上がらない

（原因）ゴミかエアが噛んでいる。

（対応）リリースハンドルを反時計回り（DOWN）に緩めます。

その状態でポンプペダルを 10 回くらい早漕ぎしてください。

（症状）油漏れ

（原因）①シリンダー・ポンプのホース継ぎ手の緩み

②ポンプをとめている M10 ナットが緩んでいる

③シリンダーピストンに傷が入り、O リングが切れている

④ポンプ下部を触ると油が付着している

（対応）①と②は締め直してください。

③シリンダーの交換が必要です。

④油漏れの場所を特定してください。

O リングの交換かポンプの交換が必要です。

（症状）テーブルが下がってくる。

（原因）①リリースバルブが締まりきっていない。

（対応）①リリーススクリューを締め直してください。またはゴミ噛みの可能性も有り。

上記テーブルが上がらないと同じ対応を行って下さい。それでも治らなければポンプ交換になります。

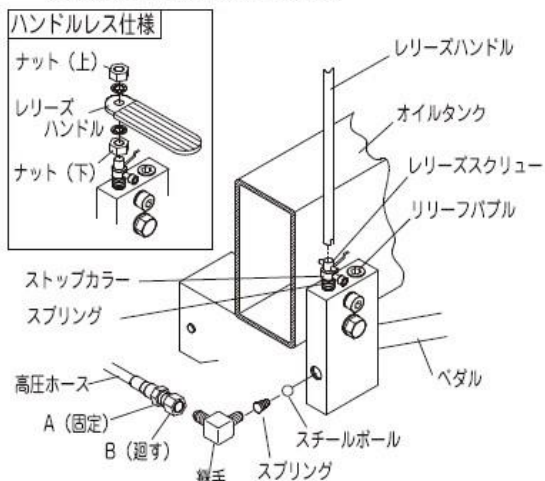
または、規格内。JIS でのテーブル降下量は最大積載質量を負荷して 1 5 分間放置した時、揚程の 2 % 以下となっています。つまり 1 2. 5 時間で最高位から最低位まで下がっても良いということです。

取説の一部です↓

● 簡単な修理の方法 ●

A.ポンプを漕いでも上昇しない時

リリースハンドルを“DOWN”の方向にいっぱい回し、ポンプペタルを手で数回できるだけ早く漕いでください。(早く空漕ぎする)
この操作をすると大抵の場合直ります。



C.シリンダー内に空気が入りテーブルがふわふわしている時

ポンプを漕いでテーブルを最高位まで上昇させてください。その後、リリースハンドルを回しテーブルを最低位まで下げれば直ります。

D.ポンプを漕いでも1回でテーブルが上昇する量が規定より少ない時

ポンプを空気が入っていますので、オイルタンク側を50mmほど持ち上げて数度ポンプを漕いでください。その後、リリースハンドルを回しテーブルを最低位まで下げれば直ります。

E.リリースハンドルが回らず下降しないとき

リリーススクリューを直接反時計回りに回してください。

HLLタイプはナット(上)(下)をしっかり締めてから、ナット(下)のみを反時計回りに回してください。

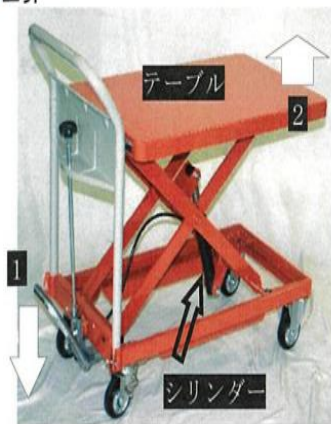
B.左記Aの操作を行っても故障が直らない時

(ポンプペタルを漕ぐたびに、テーブルが上昇したり下降したりする時)

1. テーブルを最低位まで下げて下さい。ポンプの下にウエス・新聞紙等を敷いて下さい。
2. 高圧ホースを外す。(Aのナットをスパナで固定し、Bのナットをゆるめると外れます。)
3. 継手を取り外す。
4. ポンプペタルを手で2~3回早く漕ぐと、スプリングとスチールボールが出て来てオイルと一緒にゴミもできます。紙コップ等で受けて下さい。
5. 再度、スチールボール・スプリングの順に入れ継手を締めて高圧ホースを継いで下さい。ホースがねじれない様注意して下さい。(注意=スプリングはテーブルになっています。小さい方がスチールボール側です。)
6. ポンプペタルを漕いでテーブルを上限まで上げてみてください。途中までしか上がらない場合にはオイル不足です。一旦テーブルを最低位まで下げてからタンクのゴムプラグを抜き、スピンドルオイル (ISO-VG22) を給油口まで補給してください。

ハンドリフター・HLF

上昇



- 1: ペダルを踏む
(シリンダーが伸びる)
- 2: テーブルが上昇し、止まる
- 3: ペダルを離すと、ペダルが戻る

ペダルを踏む回数でテーブルを任意の高さに調整できます。
1回のペダルを踏む量でテーブルを少しだけ動かす微調整も可能です。

下降



- 1: リリースハンドルを回す
(シリンダーが縮む)
- 2: テーブルが下降する
- 3: リリースハンドルを離すと、下降が止まる (パネの力でリリースハンドルが戻ります。)

リリースハンドルを回す角度でテーブルの下降速度を調整できます。
リリースハンドルを回す時間でテーブルの下降量が調整でき、任意の高さで止められます。

走行



- 1: キャスターのストッパーを解除する (左写真のレバータイプ以外に右写真のシーソータイプもあります)
- 2: 押しハンドルを押して走行
- 3: キャスターのストッパーをかける

写真のストッパーは
解除されています



写真のストッパーは
解除されています